

スマート農業技術の推進

～地域に適したスマート農業の推進～

東部支所地域係 浜中町・厚岸町

◇ 活動のねらい

- 厚岸町若松・糸魚沢地域で、平成28年より草地植生および収量調査を実施
- C農家の17番草地が、更新2年後にもかかわらず牧草収量が低下
- 農業者と原因を検討 ⇒土壌成分、肥培管理、収穫作業等に問題無し
- 「秋や春にシカの糞が多くみられる」 ⇒**スマート農業技術を活用して食害を調査**

1 活動の経過

調査区の設置(令和4年3月)

鉄柵で囲った「無食害区」を設置(4カ所)、
それ以外は「食害区」



監視カメラの設置(令和4年6月)

自動撮影カメラを設置



乾電池式のIoTセンサーカメラで、
昼夜の撮影が可能

画像は、ウェブ上のサーバーを通し
て、スマートフォンに送信される

NTT東日本カスタマーリレー
ショングループの協力のもと、
設置および運用を行った

植生調査の実施(令和4年5月)

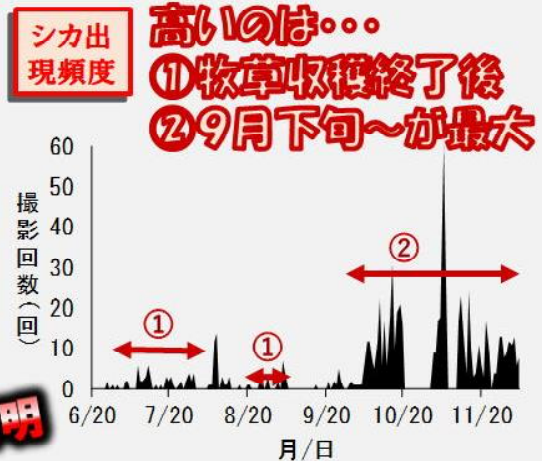
草種毎の冠部被度を調査

収量調査の実施(令和4年6月・8月)

調査区の牧草収量を調査

2 活動の成果

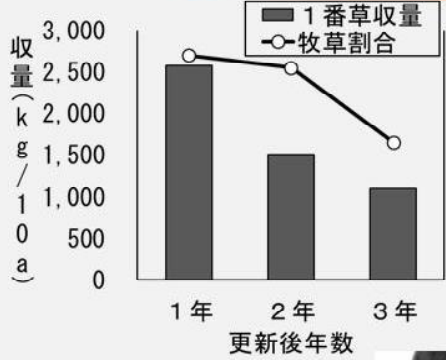
監視カメラの記録から判明



収量調査結果から判明



更新翌年から収量低下した要因



各番草収穫後の食害により、
牧草再生芽を確保できない

秋期の食害により、翌年の1番草
生育のための養分蓄積が不足

シカが来る草地には、金網設置も効果的です。



肥料を無駄にしないように、考えようかな。

3 今後の活動

調査結果は、農業者や関係機関が出席する研修会で報告するとともに、JAが発行する広報誌に掲載し農業者へ発信している。今後もスマート農業技術に関して、相談対応及び情報の共有化を継続する。